

# 思春期なアダム5

アウトサイド・ドア

さかき傘  
挿絵／天海雪乃



立ち読み版



# CONTENTS

# 思春期なアダムら

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 序章 .....           | 8   |
| 1章/夏の日 .....       | 16  |
| 2章/ミスB着任 .....     | 37  |
| 3章/日外原へ .....      | 98  |
| 4章/キャンプ場の昼と夜 ..... | 103 |
| 5章/女湯にて .....      | 129 |
| 6章/男湯にて .....      | 167 |
| 7章/アウトサイド・ドア ..... | 211 |
| 8章/扉は開かれた .....    | 318 |



## 地遊<sup>じゆう</sup>尼<sup>に</sup>エンジュ

陸月を護衛する天使少女。身の丈ほどもある大剣を操る。



## 藤田<sup>ふじた</sup>陸<sup>むつき</sup>月

普通の少年だが、右目に女性を支配する“蛇眼”の力を秘めており、現在はエンジュたちと同居し、保護されている。



## 伊部<sup>いべ</sup>草<sup>くさ</sup>マキナ

秘密組織「FeTUS」の一員。同級生、陸月を監視するも彼へ惹かれていき…。







しろ はら れん  
**白原恋**

睦月のひとつ上の先輩で、  
恵殿学園の前・生徒会長。  
ラクロス部に所属している。



**ミスA**

『FeTUS』幹部の一人。  
中世以前から生きていたと思われる、年齢不詳の幼女。



かつ え すばる  
**勝江昂**

睦月の担任の女教師だが、  
正体は『FeTUS』のエージェント、ミスC。



くり から さ と  
**九里空沙耶**

エンジュに一方的な恋心(?)を抱く、  
睦月の同級生の明るい少女。



さと わ  
**里輪ルシア**

蛇眼を狙う魔族の美少年。  
睦月に懐きすぎて、友人以上の関係に?

じ ゆう に  
**地遊尼ミカ**

睦月とエンジュ、二人の保護者となる大人っぽい美人の先輩天使。

だい ま まこと  
**大間真**

学園の大柄な女体育教師だが、  
その正体は『FeTUS』のメンバー、ミスD。

**ラファ**

エンジュが「兄さん」と慕う  
天使の青年で、ミカの同僚。

STORY

“蛇眼”の力に目覚めた少年、睦月。世界のあらゆる女性を発情させる力を右目に秘めた彼は、天使、魔族、そして人間側の秘密組織『FeTUS』に監視される生活を送っていた。普段は天使エンジュとミカに護衛される睦月。彼は天使たちと敵対する魔族の美少年ルシアや、『FeTUS』の少女マキナとも心を通わせ、彼等が争わずに済む方法を模索する。

だが、天使側の計略により、破壊兵器として暴走したエンジュがFeTUS本部に自爆攻撃をかける事態に。睦月はルシアやマキナの力を借りてエンジュの暴走を止め、その危機を回避するのだった。そしてその夜、ついに睦月と結ばれるエンジュ。…かくして嵐の一夜は去り、恵殿学園は夏休みを迎えようとしていた。

これまでのあらすじ

「沙耶、起きてる？ 上を向きなさい」

「ふえ……？」

私の頭はちようど彼女のおへそくらいの高さ。上を向かされると顔があつた。いつも通り凜として、カッコいい顔が。

「これを啜えて」

え？ ……んくつ。

言うが早いのか、無理やりに棒状のなにかを口にねじ込まれた。

なにこれ、ぶにぶにして、肉っぽくて、でもすごい硬い。

「……」

!?

こ、これ、まさか。エンジュちゃんのおち……。

「大丈夫、アタシたちに任せれば、なにも心配はないから」

あくまでクールなエンジュちゃん。

やっぱり生えてたの……？ 顔色も変えずに太いモノを喉までねじ込んでくる。

心配あるよお……うぐ、く、苦しい。こんなこと……まだバージンなのにい。

「聖炎は使い慣れてるけど、こんな細いところに流し込むなんて初めてね」

せ、せーえきを流し込む？ このまま射精するってこと？

ダメえ死んじやうよお。思うけど、

——ゴツ。

またしてもあの幻覚。エンジユちゃんの背中から、蒼い炎みたいなのが見えた。

ああ……♡ やっぱりこれは恋の炎？

炎は私の口に刺さった肉筒へ集まっていく。

……そう、私の心の声が導いてるんだね。このおちんちんを受け入れろって。

いいよ。分かった。初めてだからへたくそだけど、精一杯舐めるね。

「んふっ、んふんっ、んん、あふう♡」

にゆるにゆると喉にあたりそうな硬いものに舌を這わせる。

なんの味もしないんだ。本だとしよっぱいとかが書いてあるのに。

……あ、でもでも。マキにゃんの前じゃ恥ずかしいかも。

「……九里空さん」

はうっ♡

ツン。とお尻に指があたった。横を向くと、マキにゃんが寄り添うように身体を寄せて、

お尻に手を置いてくる。

「リラックスして。ココが広がるよう協力して欲しい」

あんっ♡ あんっ♡

なでなでと中指の先でお尻の穴を撫でてくる。

や……二人がかり？ 最初からそんなのハードル高すぎるよう。

でもでも、マキにゃんの指は優しくて。お尻から力がぬけちゃう……♡

「知性が芽生える以前の魔物は本能に従い動く。食事、睡眠、繁殖のいずれかの欲求を刺激すれば、こちらに従うはず」

へ？

「いまからここに養分を流し込む。魔物が気づけば、大腸まで食べに来るはず」

養分って？ あ、いやそれより。

流し込む？

——ぐにゆう。

「うあっ！」

優しいアナルなでなでにウツトリしてた私は、突然来た鋭い感覚に目を見開く。

お尻が……開いてる。なんだろう。マキにゃんの親指よりちよつと太いものに、グリグリとこじ開けられてる。

やっ♡ やっ♡ 変な気分……。

「カロリーの適切な養分は見つかったが、マスタード入りしか得られなかった。ヒリヒリするかもしれない。我慢して」

マスター……え？ カラシ？

「注入開始」

——にゅぶっ。

うわ！ わ……わ……わ！ 開かれたお尻の穴に、冷たくてにゅるつとしたものが。

流し込まれてる！ 何かお尻の穴に入れられてる——！

「んぶっ、んっ、んんんーっ！」

なに？ なにをいれられてるの？

分からない。痛くはないけど……怖い。私はエンジュちゃんのを必死にすすりなが

ら、ぶんぶんと腰を横にふる。

「暴れないで。外に出てしまおう」

出て……？ あっ！

ぶちゃつと音がして、入れられたものがちよつと噴出したのが分かる。それは当然お尻の谷間に散って……。

「あぐ……っ」

あ、熱い！ マスターだから？ うああ、お尻がやけちゃうう。

マキにゃんは構わず私の腰を押さえて、何かを流し込んでくる。

エンジュちゃんが感心したように、

「アンタ、よく平気な顔で知り合いのお尻にマヨネーズ流し込めるわね」

「……」

「うわー。うわー」

「迅速に入手できる道具の中で、緊急に使えるものはこれしかなかった」

「でも、うわー。なんでそんなことできるのよ。うわあー」

「……黙って」

何か言い合ってるあいだも、お尻の冷たさ、熱さは止まらない。口にねじ込まれたエンジュちゃんのものも大きくて硬いまま。

これ、夢？ ありえないよ。クラスメイトの子二人に、突然お浣腸されるなんて。

……ゆ、夢だよ。そんなひどいことされて、こんな気持ちになるなんて♡

「んふん、んふう、うふ、あう……」

初めてだったけど、本で見たことを思い出し、歯を立てないようにしつつエンジュちゃんのを唇で絞る。

なんだろう、こうしていると不思議。喉の奥が、チロチロと温かいものに舐められてるよ  
うな気がしてくる。それがとつても気持ちいい。

「ああん♡ ううん♡」

そういえばいつの間にか、お尻の穴も冷たさと熱さにすっかり慣れていた。

中が冷たくて外が熱い。あいだになったお尻の入り口が、むずむずと熱く疼く。何か強い感触が欲しい……腰をクネクネさせる。ねじ込まれたマヨネーズ浣腸器のくちばしがでこぼこしてて、こすれるのが気持ちよかった。

「沙耶、息が荒いわ」

「汗の量が増している。苦しいのかもしれない」

んんんう……♡ お尻、お尻すごいよお♡

やだやだ。私、もうダメかも。

身体がすごいエッチになってる。全身が疼いちゃって、二人にちつとも抵抗できない。

だってどつちもあの鋭くてカッコいい目で見てくるんだもん。嫌がるなんてできないよ。それどころか身体は勝手に、エンジュちゃんの逞しいものに舌を絡めてしまう。

「んふっ、んん、ぶあああ♡」

エンジュちゃんの……すごく大きい。

男の子のは見たことがない。普通でもこんなに大きいのかな。よく分からないけど。こんなに嫌悪感なく口に含めるのは、エンジュちゃんのだけだと思う。

「……注入完了」

にゅぽつとマキにゃんが浣腸器を抜く。

けどエンジュちゃんは放してくれない。マキにゃんも私を抱いたまま。

そこで初めて『お浣腸』にはナニが伴うのか思い出した。お腹がきゅーっと寒気みたいな痛みにかられる。

……だ、出せってこと？ 二人の目の前で？

無理だよさすがに……私は泣いてしまいたいそうになり、お尻の谷間に力を込めた。

「虫下しの準備は整っている。そちらからも腹圧をかけて欲しい」

——にゅぽ。

マキにやんの細い指が、マヨネーズでぬるぬるになった穴に入ってきた。

栓をしてくれる……わけじゃないみたい。にゅつにゅつとリズムカルに出し入れする。

「くあ……それだめ。それだめえ」

私は汗だくになって、口をばくばくさせる。

どうしても腸がつかれてしまう。腹筋が操り人形になって、勝手にいきむみたいな力を込めていた。

やだやだそんな。お尻からなにか出すところ見られるなんて絶対に嫌。ましてや友達に。

それに……トイレで大きいほうしたの、いつだっけ。下手したらマヨネーズだけじゃなくて、ヘンなものまで出ちゃうかも。

「やああんマキにやんやめてえ、イジツちゃだめえ」

「怯えなくていい」



必死で訴えるけど、マキにゃんはやめてくれない。

……ていうかコレ、すごいかも。

白魚みたいな指の形をはつきり感じ取れるくらい、お尻は敏感になってる。そんなところを優しくなでなでされるんだから……。

「ああん……♡ はあん♡ お尻ひり、お尻ひりらメなのお♡」

あれ……？ ウソ、いまの私の声？

すごくエッチな声が出ちゃってる。

優しい指使いに、目の前がぼーっと白くなってくる。おっぱいがパンパンに張ってるのが分かる。乳首がずきずき脈を打って痛いくらい。

こんな興奮、人生で初めて。

私はもうこの気持ちよさに。二人に身を任せたくて仕方なくなってた。

ちゅうちゅうと無意識にエンジュちゃんのおちんちんを吸い、お尻の穴をいやらしくめくらせて、マキにゃんの指を噛みしめていく——。

そのときだった。

「来た……」

マキにゃんが深刻そうな声でつぶやく。同時にぐりゅつとお腹の下のほうが大きく鳴った。

あれ……なに？ なにか変。ぐりゅつ、ぐりゅつとお腹の中で、生き物が暴れてる感じ。大腸だっけ、お腹の中を引っかきながら、外へ……。

あつ、あつ、ダメえ。でちやう、うんち出ちやううつ。

この感じはマヨネーズじゃない。マヨネはもつと浅い部分にあるもん。

うそ……漏れちやう。見られちやう!!

焦るけど、お腹の中のモコモコした動きは止まらない。どんどん出口へ迫ってくる。

うんちが意思を持ったみたい。全身から汗が噴き出した。私は必死で背骨の下付近に力を込める。

かいあつてか暴れる感じは、出口少し前で止まった。助かった……けど。一番辛いところなのはまちがない。

「地遊尼さん手伝って。あとちよつとで排出される」

「OK出たらすぐ縛るのよ。引き抜いて焼き尽くしてやるわ」

「——んぶえつ」

突然エンジュちゃんが身を翻した。喉まで来てた太いものが抜ける。

はあ……はうう……すごかった。おちんちん舐めるなんて初めてなのに、最初からあんなハードな。

……エンジュちゃんのなら……最後までされても飲めたかも。



「くはああ、んう、そこ、あああ、お尻……大好き……」

接触面から生じる甘ったるい痺れに、少年はますます愛らしく目を細めた。

(……可愛い。もっと感じて顔が見たい)

ルシアの最大の武器は、やはりその可愛さだ。

理性という枠から『同性である』という違和感を弾き飛ばす、問答無用の力。

この顔が淫靡に染まる様子が見たくてしようがない。睦月は原始的な欲求に従い、指を谷の深くへ、深くへ沈めていく。

——ちよんっ、

「っふあんっ♥」

つるつるすべすべのヒップとは対照的に、輶わだちのようなでこぼこした箇所<sup>わだち</sup>に到達した。

格別熱をはらんで、柔らかかったのに触れた瞬間キュツと硬くなる場所。

放射状に広がる、短い皺の周縁を探りあてる。

「っは……、あう、はうう……。そこ、ああ、ボク、そこお……」

触られただけで力が抜けたのか、ルシアは上体を後ろ向きに倒す。

ヒップにかかる体重が少なくなつたため、より触りやすいアヌスへ。睦月はもう夢中になつてゆるゆる指をこすりつけた。

嫌悪感はない。もう何度か弄っているし、舐めたこともある。一度はペニスを沈めて、

どくどくと体液を流し込んだことまであるのだから。

「……ふふ」

そんな彼の欲情を読みとったのか、ルシアは仰向けに寝転んだまま、ひざを抱えるように持ちあげてみせた。両足をM字に広げた……赤ちゃんがオムツを替えてもらうときの格好になる。人間の身体が最も股座を無防備にした格好に。

「……ルシア君」

言葉はいらぬ。誘われるまでもなく睦月は、ソープにぬるつく手先で、少しだけ持ちあげたヒップを抱える。

——ムチ。

「はんっ……♥」

愛らしい肉たぶが割れ、狭間に風が通ったルシアが身震いする。

肌の色よりうっすらピンクが強い谷底。中央部のくぼみでは、紅色の皺がひゆくひゆくと刺激を待ちわびている。

——ニユル。

「ひう……っ、ひんんっ♥ んっ、んんんっ♥」

細い四肢を痙攣させるルシア。

(ルシア君、気持ちよさそう……ならもっど)

そんな一挙一動に誘われ、睦月は同性愛の世界にのめりこんでいった。

ルシアとするときはいつもこうだ。基本的に受けるタイプなのに、主導権はなぜか彼。サディスティックなマゾヒストに乗せられるまま睦月は攻め。そして、

「ンう……ふふ。おつきくなってる」

太ももにあたるタオル越しのものが、先ほどより大きくなっているのを感じ、ルシアが嬉しそうに目を細めた。

乗せられるまま興奮させられてしまう。

排泄器官とは思えない、オスの性欲を誘うために色づけたような濃ピンクの溝をねちねちイジりながら、昂りきつっている陰茎をぐいぐいせりあげた。

魔少年はコケティッシュに笑い、

「……いいよ。来て♥」

睦月がタオルを取ると、ルシアはさらにひざを抱え込んで、屹立の向かう先へと魅惑のヒップを据えてくれた。

(ルシア君……の……)

いざ交合に移ろうという段になり、興奮の震えを押し殺す睦月。

できる限り結合しやすい格好を取ってくれるルシアだが、正面から向き合っているので、

見下ろす位置には元気のいい『オトコの子の部分』がある。

彼は女でなくオトコの子だ。それを強く意識した。

以前に一度した交合は、動けない状態で無理やり奪われたが。今度はちがう。自分から同性愛の倒錯世界に踏み出さなければならぬ。

(……行くぞ)

普段なら躊躇しただろうそんな異常さが。いまは不思議と高揚感を刺激する。

ソープをぬりたくって、細かいシャボンに覆われた溝では、紅色の皺がひゆくんひゆくん揉みあっていた。

ここが外であるという大胆さがそうさせるのか。睦月は――。

――ぐにう。

「ん……っ」

――にゆぐ……っ、グググググ……っ。

「んふうううう……っ♥」

彼にしては強引な荒々しきで、繊細な同性の蕾を切り崩していく。

幸いにもルシアの肉は、ペニスを迎えるのは二度目でも、千の男を知る娼婦の蜜壺に等しい柔らかさだった。凶暴な異物を甘く噛みしめられて、ぐいぐいと進めば、ウネリながら口を広げていく。

「あ……っは♥ ひらく……ひろがる……♥ おしり、お尻ひろがるうう♥」  
 このときばかりはサディストの顔をしてもらえない。マゾの鳴咽をほとぼしらせながら、ルシアはガクンと背をのけぞらせた。広げられていく反対側で、ぷっくり膨れた勃起がぴんぴんと跳ねる。

「ルシア君……うはっ、く、すごい柔らかい」

「んん……っ♥ たっぷり味わって。ボクの、ボクのお尻、睦月クンのだよ♥」

コケティッシュな表情を、どこか幼く蕩かしながら、両手を伸ばしてくるルシア。睦月は応じて身体を倒し、正常位の形で小さな裸身を抱いた。まだ泡まみれの胸やお腹がくつき。生きのいいペニス、二人の下腹部につぶされる。

——じゅぶ……っ、じゅぶ、にゅぶうう……。

シャボンのぬるつきも手伝って、結合はかなり楽に進んだ。柔らかい括約筋おしりに海綿体ペニスをヌメヌメ舐められる感触に痺れながら、直腸を、結腸を犯していく。

「ああ……。ああっ♥ はああ……っ♥」

内臓が埋め尽くされる。息が詰まるような拡張感に、全身を揺らすルシア。

きめの細かい白肌には、脂汗が噴き出していた。少なからず痛がっているのが分かる。

けれど愛くるしい顔は、苦しげにゆがむことはなく、深い陶醉に染まっていた。痛みさえ被虐の快樂として受け止め、愛しい少年に支配されることを楽しんでるようだ。



「……っルシア君……、可愛いよルシア君。ルシア君……っ」  
 睦月もまた、ペニスを舐めてくる腸壁の心地よさに、興奮の度合いがつまりあげられていくのを感じる。

ペニスを根元まで埋めきったあとも、ぷにぷにのヒップへ腰を打ちつけるよう体重をかけた。結合はいっそう深まり、閉塞した腸の深層をこじ開けていく。

ひざまでつかった湯船をざぶざぶ波打たせながら、くみしいた細身の色々なところに手を這わせる。華奢な背筋へ、横腹へ、お腹へ、薄い胸へ、ベビーピンクの乳首へ。

「っは……っ、はっ、はっ、はっ……」

「あうあっ、あっ、あああっ♥ 睦月クン……そんな、身体中……きゅあああんっっ♥  
 それダメ、くすぐりたいよお♥」

お尻の穴から立ち上る痛みまじりの被虐快楽だけでフラフラのルシアに、ソープをまぶしたヌメらかな愛撫を受け止めるキャパシティはないようだった。

だがだからこそ睦月は凶暴さをあおられる。もっと気持ちいい場所を見つけようと、ぐりぐり腰を送り込んで、腰のちょうど中間を射抜きながら、

「ひゃん……っ♥」

にゆるりとおへその下にあたる、ペニスを挿んだ。

「あん……っ♥ はんっ♥ ち○ぼっ、ち○ぼ……やっ♥ おしりグリグリしながら、ち

○ぼいじつちやらめえつつ♡」

「あは……っ。テンションあがつてきたね。気持ちイイんだ？」

「うあああんすごい♡ すごいのお、睦月クンのち○ぼ、ち○ぼ奥まで来てて。ボクのち○ぼせりあがつちやうのおお♡ ああああお尻そんな深くしないでえ♡」

ちようど亀頭部が喜悦の源泉にあたっているらしい。プロンドの髪をばらばらにして泣きじゃくるルシア。

睦月の興奮も高まる一方だった。

(僕……してるっ。ルシア君と。オトコの子とセックスしてる)

倒錯的なヨロコびを覚えながら腰を送る。幅広い雁首で腸管がピンと伸びるくらい前へ、後ろへ貫きながら。掴まえたペニスにも胸元にも。

——ニユクニユクウニウニ。ぐいつ、ぐいつ、ぐいつ。

「くあやああああ♡ それっ、それやりすぎい。おしりっ、おしり気持ちイイのにつ、ち○ぼと乳首もヨくしちやらめええ♡♡ ボク……もっ、もお……っ」

長く伸びた怒張で、内臓を磨かれながら、乳頭やペニスまでイタズラされる。

ルシアがふるふるると肢体を痙攣させるのは早かった。

「ン……いいよ。好きなときに。好きだけ」

睦月はもう少し我慢できそうな気はしたが。排泄口というより性具に近い腸肉は、いつ

でも精のトリガーを引けるくらい心地よい。

ぺちん、ぺちんと腰をお尻へ叩きつけながら、可愛いパートナーの限界を待った。とどめの精弾を流し込んでやるそのときを。

「んは……っ♡ はあ、あへあああ……」

快楽に比例して淫楽の喘ぎが止められなくなるタイプのルシアが、急激に声のトーンを落とした。

「うあ……っ！ ひゃ、あ——っ！」

ぶるりと大きく腰が震える。同時に腸壁が雪崩を打った。入り込んだ睦月の怒張へ、煮えたぎる予感を伝えながら——。

「あああああああああああああああツツツ♡♡♡♡♡」

——びちゅっ！ びゆるっ、ぎゅぶるっつ！

小さな勃起が弾けんばかりに暴れる。

尖端からおびたらしい白濁が噴き出し、寝そべったルシアの腹や胸、あご、顔を越える距離まで飛んでいく。

だがそんな分かりやすいサインよりも、睦月は結合部の反応で彼の絶頂を悟った。

きゆうきゆう甘えてきたマゾヒスティックな直腸が、突然ぎゅつと窄まったかと思うと、吸いあげるように奥へ向けてヒクつき出したのだ。

「ああ……っ」

——どびゅぶるるるるるっ！　びゅびゅ！　びゅくるるるるっ！

固体かと思うほど濃粘で、勢いたつぷりのスペルマが、誘われるままルシアの直腸へとそっくり流し込まれる。

「くひあああんんん♥　んんっ♥　んぐううううっっ♥♥♥」

どくどくと脈を打つペニス。そこから流れる、力強い奔流。

いま出している射精感が、腸壁を揺らされる感触で上書きされたらしい。ルシアは息つく暇もなく再度のオルガスムスを迎えた。放ち終えたと思つた肉器が、またびゅっ和白濁を噴いて睦月の手を汚す。

「あん……っ♥　はん……っ♥　睦月くうん……♥」

二つの愉悦が螺旋のように交錯して、普段よりずつと長続きするのだろう。身を揉み続けていくルシア。

一方の睦月は、彼にあわせる形で放つたためか、射精の快感をやや冷静にとらえていた。虚脱感が薄く、そのせいで状況を冷静に受け止める。

(……しちゃった。オトコの子と)

同性愛に、自分から進んで踏み込んだ事実を。

それ自体には後悔はないが。



プライドを捨てきれず下着は取らなかつたものの、脱いだことは変わりない。ホットパンツがひざまで落ちるのを待ち、睦月は改めて形のよいヒップに顔を寄せた。

「……ふふ、お尻、ヒクヒクしてる」

「やあ……上から舐めちゃダメえ」

お尻の谷間に顔をうずめて、妖しいニオイのくぼみへ舌を沈める。エンジユは目の前にいるマキナが見えなくなつたよう、切れ長の蒼眼を潤ませて、甘えた悲鳴をあげた。

少女の弱いところを知り尽くした少年。彼の攻め方に馴染みきつて身をゆだねているエンジユ。

傍目から見て息びつたりな二人の構図に、マキナは閉口する。

「つと、こつち……伊部草さん、手伝つて」

「へ？」

突然の少年の提案に、少女二人が同時に首をかしげた。

睦月は構わずマキナの手を取り、自分のすぐ前に引き寄せる。

——ムニ。

「あ……っ」

プニつく美尻を触らせた。

驚くマキナだが、手のひらは柔らかさと絶妙な弾力とに魅せられ、つい力が入る。

ぎゅつとまろやかな感触を握りしめていた。エンジュが鼻を鳴らすくらい強く。睦月はさらに指先を、布の半分以上がぐっしりになった下着の中まで導いた。

「ちよつと……睦月、なにさせるつもり——ひぁあんっ」

敏感な谷間に風が通って、ようやく危機を察する天使だが。官能に囚われた身体では意味がない。マキナは誘われるまま下着の奥の谷間の深く、熱い妖尻までたどり着く。

「エンジュ、ここがすごく弱いんだ。いじつてあげてよ」

「バカッ、なに言ってるのよ！ 伊部草、ちよ、は、放し……ふぁッ」  
怒鳴るエンジュ。

マキナとしても、昨夜沙耶にしたように必要があつてのことではなければ、他人の股座に手を入れる趣味はない。どうしたらいいか分からず固まるのだが、

睦月が強引に手を引っ張るので、結果的に二人の意見は無視されることに。

——ヌヌ……ぬるう。

「あつ、あつ、あつ、バ……やめて……え♡」

ほんの数分、着衣越しに刺激されただけなのに、肛肉のふやけっぷりはマキナが目を丸くするほどだった。

細いとはいえ人一人の中指をやすやす呑み込んでいく。しかも第一関節まで潜ると、今度は周辺の壁がスイッチをきりかえて収縮してきた。吐き出そうとするのではなく、ぬめ

ぬめと甘えて指にすりつき、奥へ引きずり込む反応を見せる。

「ああつ、ンっ♡ 伊部草っ、放して、放しなさいよお……はんっ♡ あんん♡」

プライドの高い天使は必死に怒鳴るのだが、迫力がないどころか、合間合間に漏れる吐息は正反對のことを言っていた。

もつと触つて。もつといじめて。もつと奥まで。

その声無きおねだりが聞こえたかのように、マキナはすでに第二関節まで飲み込まれた中指をおりあげた。

濡肛をこじ開ける感じでヌツ、ヌツと出し入れする。入ったときはあんなに柔らかかった括約筋が、いまは弾力を帯びて食いしめてきた。

「やうつ、ばかつ、あああんバカあつ、やめて、やめなさいよつ」

口では勇ましく吼えるエンジュだが、キスで高められ、焦らしの時間まで置かれた身体は、天性の淫らさを浮上させてしまっている。

にゆり、にゆり、ほんの数回腸壁を撫でられただけで、ひざがガクガクしてきた。

睦月に支えられその場でひざをつく少女。自然と木でなく、その前にいる座ったマキナにもたれる形になる。

「いべ……くさ。覚えてなさ……はああん♡」

必死に眉をつりあげようとするエンジュだが、怖い顔も迫力がなかった。



マキナは同性を攻めるといふ倒錯的な状況に、頭が真っ白になっているようだ。ただ眼前に来た美しい天使の顔が、淫悦にゆがみ、むせび泣く様子に魅入られていた。

「ふふ、それじゃあ僕はこっちでヨロコばせてあげる」

弱点肛は彼女に任せて、睦月の指はもう中からのエキスでぐしょぐしょになっている花弁へ這い寄る。

クロッチの上からでも、肉裂は口を開いているのが分かった。この暗さでも張りついた純白の生地には鮮紅色が浮かんでいるほどだ。

作りが幼い点ではマキナのそれと同じだが、エンジュの果肉は口を広げやすい特徴がある。内部の敏感な粘膜も触りやすかった。

すっすつと柔らかく刺激していく。

「んふああ、やめ、やめてつてばあ。うあん、はああんう」

デリケートなタッチのもたらす妖しい触感に、エンジュは長い赤毛を散らしてふるふる首を横にふった。

その必死さが逆に、少女がもう余裕をなくしていることを物語る。

「そんなに恥ずかしがらなくていいよエンジュ。いまのエンジュ、すごく可愛いから」

「ひう……あふうう……うるさああい」

「地遊尼さん……」

舌戯でもマキナをたちまち追い詰めた睦月だが、エンジュはさらに早かった。すでに肢体は股間を行き来する指先の奴隷と化しており、わずかな動きにも大げさに腰全体を反応させている。

力の抜けた上体はマキナが預かっている。

攻め狂わされる天使の危うい愛くるしさに彼女も魅入られていた。たぶたぶとクツションになっている乳房の先が、つんと再度尖っている。

「……ふふ♪」

そんな二人に気づいた睦月が、入り組んだ肉溝を暴く指は止めないまま、身を乗り出してきた。

あえてエンジュでなくマキナのもとへ。妖しい気分が逆流した少女は、とろんとした目つきで口元をムニつかせ、求められればすぐキスに応じた。

「あ……うああ……」

位置的にすぐ目の前で、一組の男女がヌラヌラと唇をかわす。動揺したエンジュがキュッと眉間に皺を寄せた。膣道もアヌスもどちらも切なそうに窄まる。

先ほど見せつけられたときも困惑していたのに。敏感な箇所をねちねちこすられながらでは、たまたらなくなるのは当然だった。

「……ほら、エンジュ」

「あう」

見越した睦月が、渡り鳥となってそんな彼女の口元を舐める。

「——んう」

エンジュは我慢できないといった感じに背筋から雪白の太ももまでをふるつかせ、そんな少年の唇に吸いついた。欲求不満なせいで甘えきったベーゼだ。根っこまでくつつくほど舌同士を重ねて、お互いの味を楽しみながら、ウネウネとこすりあう。

「う……」

息の合った唇のかわし方に、今度はマキナが頬を紅潮させた。なんだか見てはいけなものを見た気分ですっぽを向く。だが、

「伊部草さんも」

「ンう……む」

睦月はどちらも逃がさなかった。天使の唾液でとろとろに濡れた唇を、失礼なほどべつとりと魔女のそれへ押しつける。

さらにあいたほうの手で、エンジュに乗っかられてつぶれた乳房をそつと撫でた。

「あふ……、あ、んん……ふじたく……ふあつ」

同性の味とニオイにまみれた舌を預けられながら、感じやすい膨らみをゆるゆると揉まれる。甘い倒錯感の中でマキナは、天使の少女の味が肺に、味蕾にいきわたっていくよう

な気分を覚えていた。

少年はまた拗ねた顔をしている天使のもとへ。だが置いてけぼりを食った魔女は、それをうらやましいとは思えても、切ないとは思わなかった。

——くい。

「っひんっ！」

美肌に入れたまま、行くことも戻ることもしないでいた中指を動かす。

「くあ、や……い、いべ……ンンンあ、はっ、おしり、らめええ」

熱く蕩けた腭層をこする、睦月の指だけで手一杯だったのだ。ジンジン直腸を焼く指先が動きだしては。エンジュはろれつも回らない声で叫んだ。

だがマキナは止まらない。口に残った天使の味に魅入られ、ぬくぬく括約筋をほじくりながら、

「地遊尼……さん」

——ふに。

「あふ……♡ んあっ、うそ、アンタなにかんがえて……あはああん♡」

少年に導かれるでなく、自分から手を伸ばして、少女の胸乳を掴んでいた。

手のひらにすっぽり収まるサイズだが、肉付き自体は思いがけず厚めのバスト。服の上からゆったりと撫でる。

「ああっ、う、こら、あん。おっぱい、お尻とアソコ熱いのに、おっぱいだめえ」  
エンジュは最後の理性が拒絶するらしく、しきりに首をいやいやさせた。

しかし腰の付け根が蕩けそうなほどねちっこく責められては。敵対関係にある魔女の、裏門をなぞる繊細な指使いにも、乳房を転がす甘いタッチにも、抵抗できない。

「あ、あ………伊部草、ちよ、触り方、やらしい」  
とくに柔肛をほぐす指戯には悶絶させられた。

これまでここに触ったのは睦月一人だが、少年の指よりずっと細いものが、ずっと優しく、孔の周りから括約筋の表、裏、腸壁までをなぞってくる。

「ふあああ……♡」

ただでさえ弱い孔に、四歳の子供の頭を撫でるよう優しく接され、天使は凜々しい表情をとろおんと緩ませていく。

「ははっ、伊部草さんもノツてきたね」

二人を操る指揮者となった睦月は、満足そうに唇をマキナのもとへ戻した。

敵対者<sup>エンジュ</sup>を愛しだした倒錯の根幹は、少年が妖しく乳房を転がしながら、ぬめぬめ口に彼女の香りを移してくることにある。キスされるたび頭が混乱してしまい、少女はいっそう深く天使の美肛を貫いた。

「ん……っふうう♡ あ……あ……」

淫楽が頭まで侵食してきたのか、エンジュはそんな二人に嫉妬して、顔を近づけていった。睦月が戻ってくると、嬉しそうに舌を差し出し、れるれる口腔を舐めあう。

いつしか三人、頬がこすれるほどの距離になっていた。

「んふ、うう、むつきい♡」

「藤田……くん♡」

少女二人は競って少年の唇を舐めあい――。

「……フフ」

そこでふと邪知が芽生えた睦月は、顔を引いた。

「あ……」

突然キスが中断されて、残される天使と魔女。

頬が、鼻がぶつかる距離にあるお互いの顔に気づく。

どちらも、同性でさえ惹きつけて当然なほど美しく凛々しい顔が……。

「……♡」

どちらから仕掛けたかは分からなかった。二人同時に目を伏せたから。

「んふ……ンむううう」

「ふああ、あつ、あふ」

あれほどいがみ合っていたエンジュとマキナが唇を重ねていた。

どちらも同性との……というか睦月以外とのキスは初めてだが、ふっくら柔らかなお互いの感触がすぐに癖になる。あごをしゃくらせてしきりに唇をついばみあった。

「……」

自分で仕組んでおきながら、睦月もやや啞然としてしまった。

美少女二人がレスビアンキスに興じ、それどころか望んで唇を楽しみあう光景。

寒気がするほどの妖しさだった。

「っ……、っ……っ、うううう……っ」

正気に戻ったのは、ぴったりとマキナの唇を吸ったままエンジュが、ふるふる四肢を震わせだしたとき。

「エンジュ、お尻あげて」

天使の少女の最後の均衡は、自分でなく、同性との倒錯キスが奪った。

その点がやや引つかかるものの、気にしている暇はない。睦月は慌てて差し出された小尻を抱えた。このままではマキナに失礼なことをしてしまう。

「うあ……♡ はああ♡♡ 伊部草、伊部草ああ♡♡」

マキナは構わずニユルリニユルリ少女の肛門を犯し続けている。排泄口から広がるねっとりとした陶酔感に、少女は歓喜の声をあげる。

睦月もまたとどめを刺すべく、抱え込んだ美臀の底へぐりつと親指を送りながら、

少し上側を他の四指で押さえた。

「はん……っ♡ あんん……っ♡」

細くて子供っぽい脚をぶるぶる震わせ、ツンツ、ツンツと腰を跳ね上げるエンジユ。

「いいよエンジユ」

「たくさん……気持ちよくなって」

「……ンあ♡」

小さな肢体がねじれ、次の瞬間、ヒップを中心にガクンと跳ねた。

「ふあああああああああああゝゝゝゝゝゝ……っっっ♡♡♡」

唇を重ねたまま、敵対者の口中へと歓喜の絶叫を放つ。

喜びの電流は埋められた二つの穴から、一直線に背筋を駆けのぼる。最初の一波で頭が真つ白になった。連続で来るエクスタシーの、最初だけで、意識が半分飛んでしまう。

「か……♡ あお……♡」

——ビク……っ、ビクク……っ。

なのでジクジク身体中に、骨のずいまで染みていく快樂の本命を、少女はか細い嗚咽しか出せずに受け止めた。

四肢はうちあげられた魚のようにわななき、ぐーっど背筋がそる。乱れた赤いロングヘアがざくんざくんと弓なりの背の上で踊った。





この続きは製品版をご購入の上、  
お楽しみください。

編集・発行

**株式会社キルタイムコミュニケーション**

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

**<http://ktcom.jp/>**

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義元が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！  
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

# 待たせたら

毎月中旬  
発売!!

18歳未満の方は  
購入できません

18

漫画：老眼  
原作：斐之嘉和  
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス  
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

# あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価 / 690円(税込)




全国書店で  
**好評  
発売中**

**真夏のキャンプ場で勃発する  
天使vs魔族vs人間の  
三つどもえバトル!**

**思春期なアダムち**  
アウトサイド・ドリーム

【小説・さかき傘 / 挿絵・天海雪ひ】




全国書店で  
**好評  
発売中**

**俺のフラグは  
よりどりみりデレ**

【小説・栗栖ティナ / 挿絵・火曜】




全国書店で  
**好評  
発売中**

**平凡な少年が女体化!  
鬼に狙われた  
従姉妹を護れ!!**

**目覚めると従姉妹を護る美少女剣士に  
なっていた**

【小説・狩野景 / 挿絵・天鬼とくり】



**最強のヒロインの座を狙い、  
恋する乙女たちがH&バトル!**

**既刊LINEUP**

全国書店で好評発売中

- 仙魔学園戦姫 / ノブナガ! ①～④
- ヒルグリムメイデン ①～③
- 無敵の姫騎士がDMに目覚めたようす

- 思春期なアダム ①～④
- 呪胆娘らい萌 [カースイーター] ①～②
- 不死の吸血鬼がVSのご主人様を募集しているようす

- 借金お嬢クリス ①～③
- 魔海少女ルルイ・エルル ①～②
- オトミコ 僕は男の返女嬢



## 目覚めると従姉妹を護る美少女剣士になっていた

退魔師の分家筋に生まれた一条遼は、ある夜目覚めると身体が女になっていた!! さらに時を同じくして従妹の結女が、鬼への生け贄「鬼慰姫」として狙われ始める。遼は結女を守る「鬼斬姫」の役割を果たすため、身体が女体化したらしく!? 鬼斬姫となって退魔の力を得た遼は、果たして鬼たちの手から片思い中の従妹を守れるのか!?

小説●狩野景  
挿絵●天鬼とうり



## 俺のフラグはよりどりみみデレ

ちょっとしたドジで聖エスタド学園へと転入することになった涼邑遼人。新たな生活に期待する彼だが、そこはお嬢さまツンデレ、クーデレなどの「属性」を持つ女子たちが通う女子校だった! 一癖も二癖もある女の子——「ヒロイン」たちの「主人公」となった遼人は、彼女たちの行うバトルに巻き込まれていき……!?

小説●栗栖ティナ  
挿絵●火曜





## 思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった! ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する!

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
好評  
発売中

## 思春期なアダム2

背後をねらう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たなる刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱!“蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
好評  
発売中





## 思春期なアダム3 一人泣きの子猫

蛇眼の力を持つ睦月をそれぞれの思惑で見守る、天使少女に悪魔少年&秘密組織の美少女たち。そこに睦月の命を狙う刺客——黒猫が再び襲いかかる…も、睦月は球技大会のバレーボール特訓や、蛇眼の力を抑えるためのエッチに大忙し!? 果たして彼の力を手に入れるのは誰だ!?

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
好評  
発売中

## 思春期なアダム4 聖域の崩壊

少女天使エンジュを核にして動き出した天使サイドの計略により、睦月たちの学園生活がついに大崩壊を迎えることに!?! FeTUSとの全面衝突の危機に際して、マキナそしてミスAが立ち上がる…。蛇眼の少年、睦月にはこの戦いを止める術は無いのか!?! 緊迫の新展開!!

小説●さかき傘  
挿絵●天海雪乃



全国書店で  
好評  
発売中



# 呪詛喰らい師

人の強い想いを糧とする半妖神——淫神。常磐城咲妃は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使し、時にはその豊満な身体を差し出して彼らを鎮めていた。そんな彼女が派遣された街では淫神事件が次々と起き始めて……!? 迫りくる魔の手から友を守るため、咲妃は淫らな戦いに身を投じる!!

小説●蒼井村正  
挿絵●或斗せねか

蒼井村正  
挿絵●或斗せねか



全国書店で  
好評  
発売中

# 呪詛喰らい師2

人に害なす淫神を鎮める学生退魔師・常磐城咲妃。彼女の通う槐宝学園に転校してきたのは——春先に彼女を襲撃してきた瑠那・イリュージアだった!! 咲妃になついた彼女は、咲妃たちといっしょに学園生活を送り始める。さらに「ゼムリヤ・イリュージア」と名乗る謎の女性が咲妃をペットにしようと狙ってきて……!?

小説●蒼井村正  
挿絵●或十せねか

蒼井村正  
挿絵●或十せねか



全国書店で  
好評  
発売中



# コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

## ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

## 発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



# 電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

# キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!  
来かねる場合がございます。お問い合わせはメールでも手紙ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

**VALKYRIE**



<http://www.comic-alkyrie.com/>

**cranberry**



<http://www.cran-berry.com/>

**mille-feuille**  
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元  
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!